

- 私立大学環境保全協議会第7回海外研修報告 -

『ベトナム 水・環境技術研究所』

岡山理科大学理学部教授 野上 祐作

岡山理科大学水質管理室 平田まき子

ホーチミン市の郊外に位置する水・環境技術研究所(WATER & ENVIRONMENTAL TECHNOLOGY INSTITUTE)を訪れた。我々が案内された部屋は、扇風機がまわる事務所の一角にある手狭な応接室であった。ベトナム語だけで書かれたパンフレットと小さいペットボトルの水が配布され、最初、所長が歓迎の挨拶をして一般的な対応をしてくれていたが、営業的に多忙なため、その後、Dr. MAITUAN ANH が対応してくれた。彼の話のを要約すれば、概ね次のようになる。

本研究所は、ホーチミン工科大学を定年退官した教授(現、所長)を中心に NGO 法人として 2002 年に設立された。現在のスタッフは 12 名で、そのうち博士号取得者が 2 名、修士号取得者が 2 名いる。その他、現在、大学院で研究中のものが 3 名いる。

主たる業務は、環境アセスメントに関するもの、環境政策の提言に関わるもの、環境汚染対策技術の開発などである。その他、実習の研修も請け負っている。

国の環境に関する法律としては、環境保全法が定められていて、大気・水に関する排出規制が行なわれている。NGO 法人として認可されるためには、政府の活動の条件を受け入れるという。

本研究所の主たる運営資金は、主に政府からの委託業務および企業からの分析依頼業務に依存している。例えば、産業廃棄物処理業者と提携した工場廃水の水質分析などである。

本研究所は政府からの資金援助は特に受けていない。ベトナムには、政府の傘下にある研究所以外に、このような NGO 団体が約 100 ヶ所存在する。違いは政府からの補助金があるかないかで、業務そのものはほぼ同じことを行なっているという。

しばらく質疑応答を行なった後、所内の見学を行なった。サンプル瓶に番号を付ける作業が行われていたが、分析機器等はほとんど見当たらなかった。

全体の感想としては、政府の環境問題に対する対応は、民間の NGO 法人を有効に活用しながら進められているように思われた。共産党の独裁政治の中で、経済は市場原理を導入しているため、当面、環境産業も零細的な動脈産業として成り立っている感がある。



WATER & ENVIRONMENTAL
TECHNOLOGY INSTITUTE



Dr. MAITUAN ANH

以上